

令和元年度 事業報告書



一般財団法人札幌市環境事業公社

目 次

I 事業総括	1
II 事業報告	
1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	3
3 資源化事業	
3-1 剪定枝等処理事業	5
3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業	7
3-3 施設管理受託事業	
(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業	10
(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	13
(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	15
(4) 札幌市リサイクル団地管理事業	17
3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業	18
4 事業系ごみ収集運搬事業	20

I 事業総括

各事業とも、概ね計画通りに取組を行った。

調査啓発事業では、剪定枝チップの有効活用方法と粉碎機ハンマーに関する「調査研究事業」を、また、広報活動や各種イベントへの参加など「普及啓発活動」を、計画通り行った。

不燃用プリペイド袋リサイクル事業及び資源化事業では、各施設とも、概ね計画通りの量の資源物を受入れ、安定した運営を行った。

事業系ごみ収集運搬事業では、収集量のうち、体積は計画比で 0.5%減少（前年度実績比 1.4%減）、重量は計画比で 1.2%減少した（前年度実績比 2.4%減）。

重点項目の実施結果

（１）事業系ごみ収集運搬事業の効率化

「顧客サービスの見直し」では、小中高校 319 校で、ごみ収集をした際の伝票の様式と確認印を貰う方法を簡素化した結果、収集作業に係る時間を大幅に短縮でき、また、伝票集計などの事務処理の作業量も大きく軽減できた。また、毎年取り組んでいる「収集回数の削減」も行った。

（２）施設の計画的な保全

施設整備計画に基づき、中沼資源選別センター・駒岡資源選別センター共に破袋機・ペット圧縮梱包機の整備を行った。

（３）剪定枝チップの新たな有効活用に関する研究

篠路資源化センター敷地内に舗装資材「剪定枝チップブロック（遊歩道等舗装用成型材料）」を試験敷設し、耐久性その他の路盤材としての性能を検証した。

（４）顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

ごみを収集運搬する時や施設で資源化する際に事故が発生していることから、それを防止するため、生ごみやスプレー缶、一時多量ごみの「適切な排出方法」について写真や解説文を交えた情報を、ホームページで適時発信した。

顧客がプリペイド袋収集の申し込みをするときは、従前は、営業時間内に電話や FAX で行うこととしていたが、令和元年 10 月に「プリペイド袋収集受付システム」をスタートさせ、スマートフォンやパソコンからは 24 時間いつでも申し込みできるようにした。

（５）事務・事業の見直し及び経費の節減

上記（１）の「学校のごみに係る収集伝票の簡素化」「収集回数の削減」、（４）の「プリペイド袋収集受付システム」など、事務・事業の見直しを行い、結果、それに付随した作業時間や作業量が軽減し、ひいては経費の節減に繋がった。

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業（決算額 45,829,767円）

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、(1)広報活動による情報発信、(2)環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発。

■令和元年度事業実績

(1) 調査研究事業

①剪定枝チップの有効活用方法等に関する調査研究

令和元年度は、舗装業者に依頼して製作した舗装資材である「剪定枝チップブロック（遊歩道等舗装用成型材料）」について、耐久性その他の路盤材としての性能を検証するため、篠路資源化センター敷地内に試験敷設した。

②粉砕機ハンマーに関する調査研究

消耗品であるハンマーのコストダウンと効率的な処理を目的とした調査研究を平成29年度から実施している。令和元年度も引き続き、従来品と形状や材質の異なるハンマーの摩耗状況や処理能力の違いについて調査を実施した。

(2) 普及啓発活動

①広報活動

- ・当公社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を250部発行し、関係先に配布した。
- ・びん・缶・ペットボトルリサイクルの普及啓発のため、札幌市内小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を18,000部発行し、市内全校に配布した。
- ・札幌市内の小学校から、びん・缶・ペットボトルのリサイクル等に関する啓発ポスターを募集し、最優秀賞となったものを当公社のごみ収集車の車体側面に掲示して「走る掲示板」として啓発活動を行った。
- ・ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信した。

②イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

「環境広場さっぽろ2019」の環境関連イベントに出展し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発に努めた。また、「さっぽろこども環境コンテスト」等に協賛するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報活動・普及啓発を行った。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 59,934,002円)

■事業概要

事業経緯	平成 21 年 4 月から実施している公社の自主事業。平成 24 年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 (公社が無償借り受け) ※選別に係るものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化。

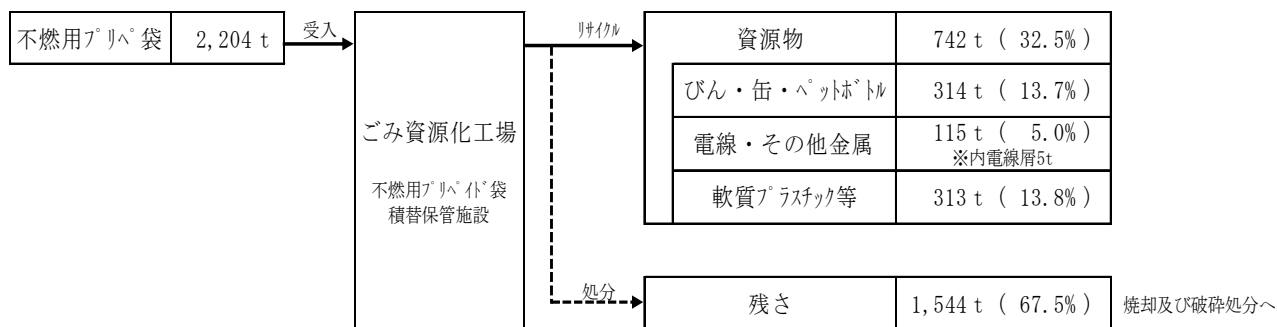
【選別品目と活用方法】

選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別。
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却。
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原料として活用。

■令和元年度事業実績

項目	計画	実績	摘 要
不燃用プリペイド袋受入量	2,230 t	2,204 t	計画比 1.2%減、前年度実績比 1.7%減

■図 2-1 令和元年度 不燃用プリペイド袋処理実績フロー図

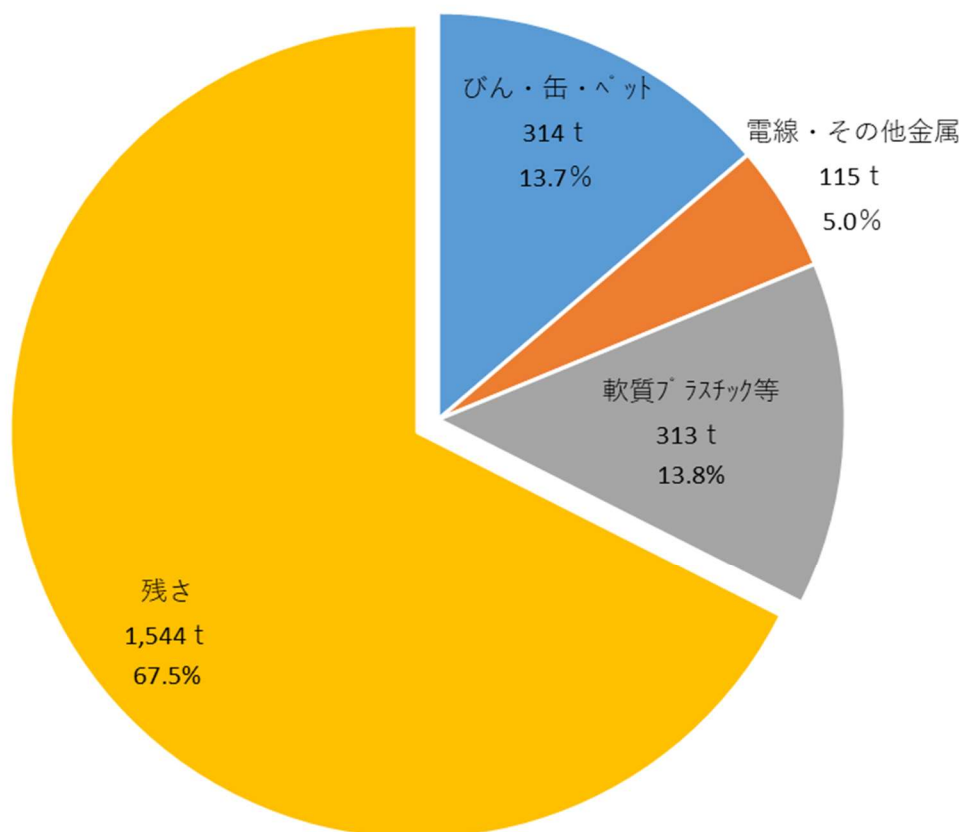


■表 2-2 直近 5 年間の事業実績

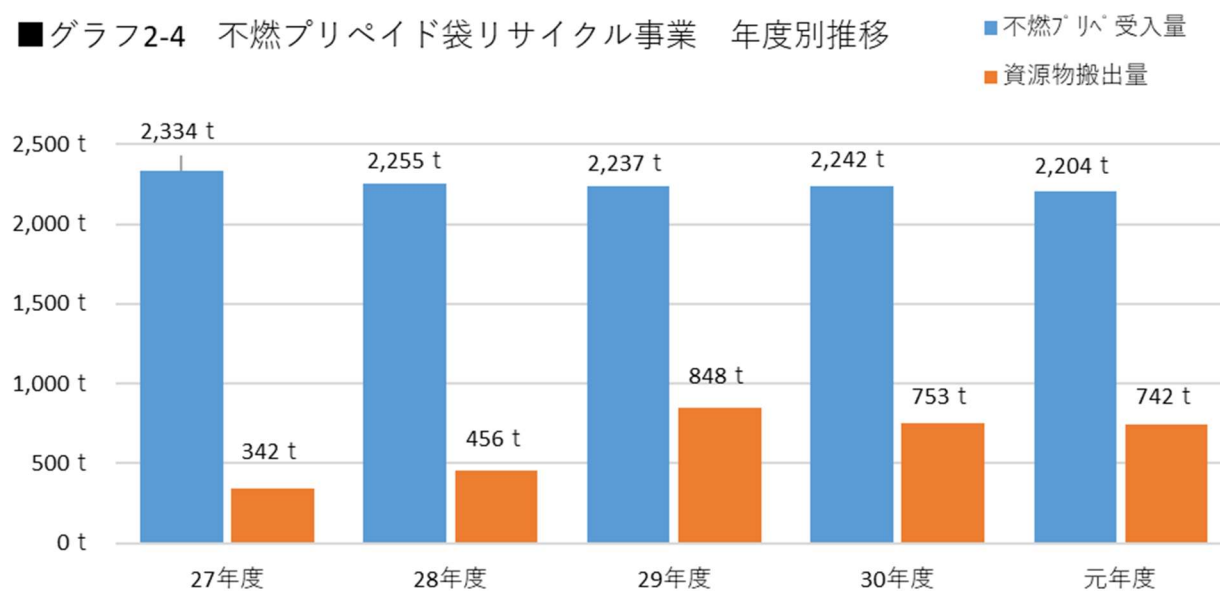
項目		直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)
		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
受入量		2,334 t	2,255 t	2,237 t	2,242 t	2,204 t	前年実績比 1.7% 減
資源物	びん・缶・ペットボトル	177 t	256 t	375 t	323 t	314 t	
	電線・その他金属	75 t	97 t	130 t	119 t	115 t	※内電線屑5t
	軟質プラスチック等	90 t	103 t	343 t	311 t	313 t	
	資源物合計	342 t	456 t	848 t	753 t	742 t	前年実績比 1.5% 減
残さ		2,029 t	1,888 t	1,466 t	1,560 t	1,544 t	埋立処分
リサイクル率		14.4%	19.5%	36.6%	32.6%	32.5%	資源物(合計)/(資源物合計+残さ)

※リサイクル率=資源物合計/(資源物合計+残さ)

■ グラフ2-3 不燃プリペイド袋リサイクル事業 令和元年度実績



■ グラフ2-4 不燃プリペイド袋リサイクル事業 年度別推移



3 資源化事業 (決算額 1, 128, 366, 111円)

3-1 剪定枝等処理事業 (決算額 71, 847, 533円)

■事業概要

事業経緯	平成20年9月の旧札幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成20年10月から当公社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料や燃料チップ、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和63年3月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、有償で公社が借り受け 横型回転破碎机(15t/h)×1基、ロータリースクリーン設備等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化。

【受入対象物】 街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】 幹は直径80cm以内、長さ2m以内

根は最大寸法(直径または長さ)1m以内で、土を落としたもの

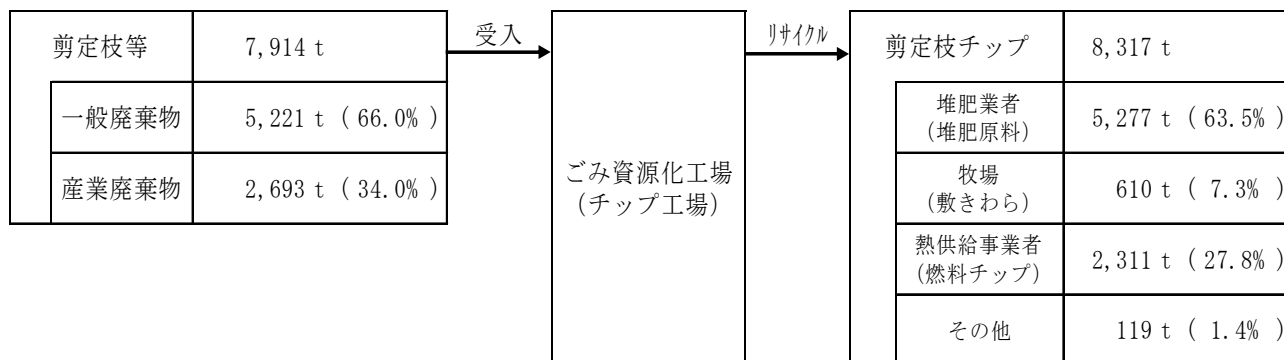
【チップ仕様】 45mm以下(用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整)

【供給先】 堆肥生産事業者(堆肥原料)、熱供給事業者(燃料)、牧場(敷きわら)

■令和元年度事業実績

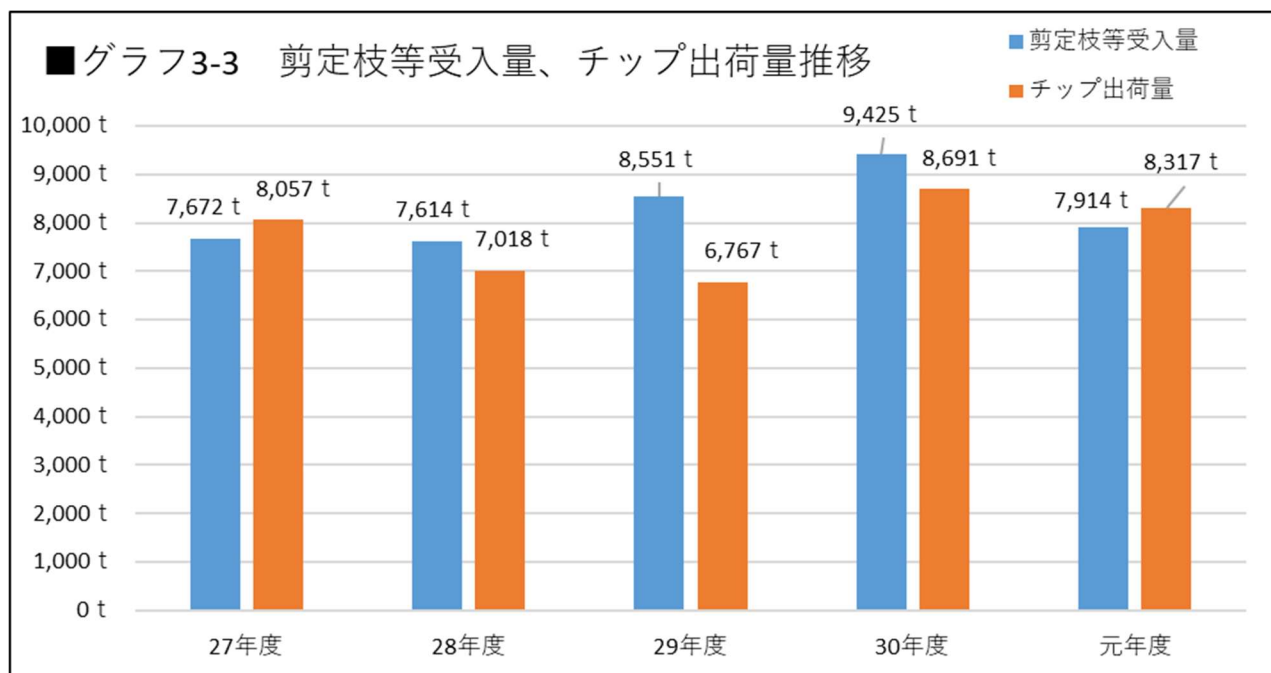
項目	計画	実績	摘 要
剪定枝等受入量	7,500 t	7,914 t	計画比 5.5%増、前年度実績比 16.0%減
チップ出荷量	7,000 t	8,317 t	計画比 18.8%増、前年度実績比 4.3%減

■図 3-1 令和元年度 事業実績フロー図



■表 3-2 直近 5 年間の事業実績

項目	直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
剪定枝等受入量	7,672 t	7,614 t	8,551 t	9,425 t	7,914 t	前年度実績比 16.0% 減
チップ出荷量	8,057 t	7,018 t	6,767 t	8,691 t	8,317 t	前年度実績比 4.3% 減



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業（決算額 876,556,421円）

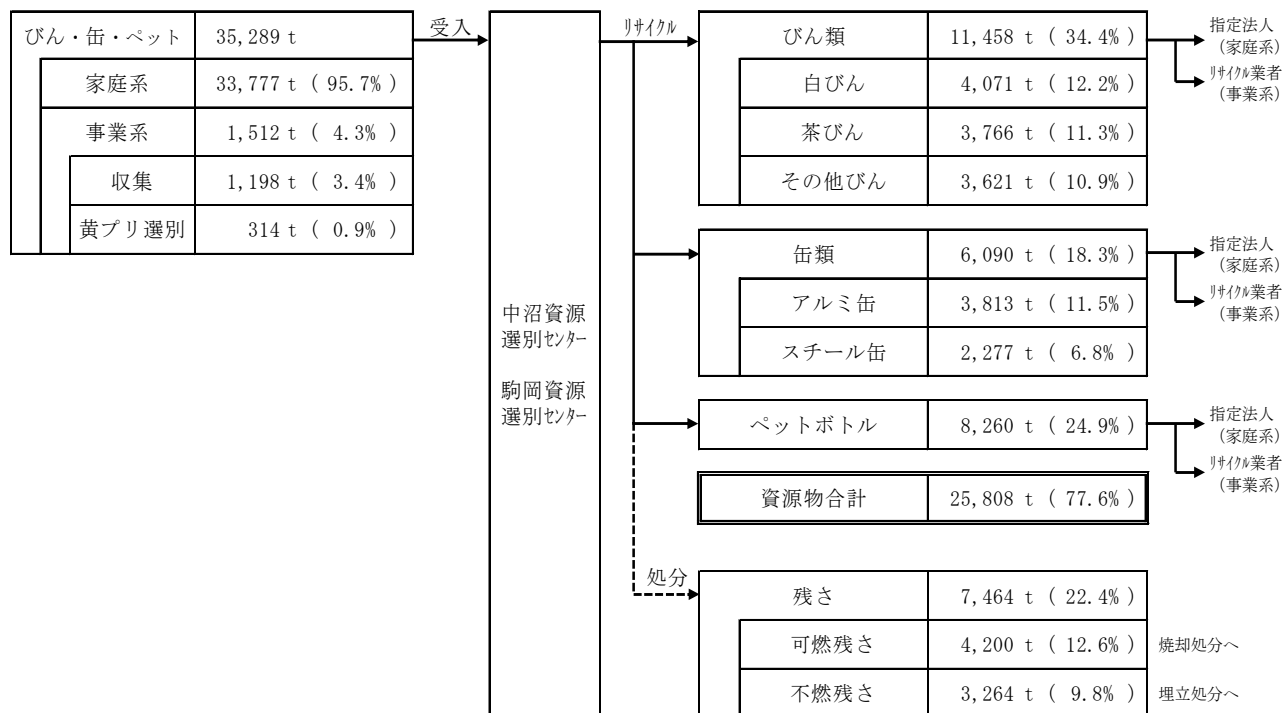
■事業概要

事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成10年10月から本格実施している札幌市からの受託事業。
実施内容	・札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 ・公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 ・なお、駒岡センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。
実施場所 （受入施設）	中沼資源選別センター（平成10年9月竣工） 処理能力 36.7 t/日(8h)×3系列＝110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター（平成10年9月竣工） 処理能力 38.5 t/日(8h)×2系列＝77 t/日(8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

■令和元年度事業実績

項目		計画	実績	摘 要
受入量	中沼資源選別センター	24,800 t	24,389 t	
	駒岡資源選別センター	10,540 t	10,900 t	
	合計	35,340 t	35,289 t	計画比0.1%減、前年度実績比0.2%増
資源物 搬出量	中沼資源選別センター	17,967 t	17,732 t	
	駒岡資源選別センター	7,339 t	8,076 t	
	合計	25,306 t	25,808 t	計画比2.0%増、前年度実績比1.5%増

■図 3-4 令和元年度 事業実績フロー図



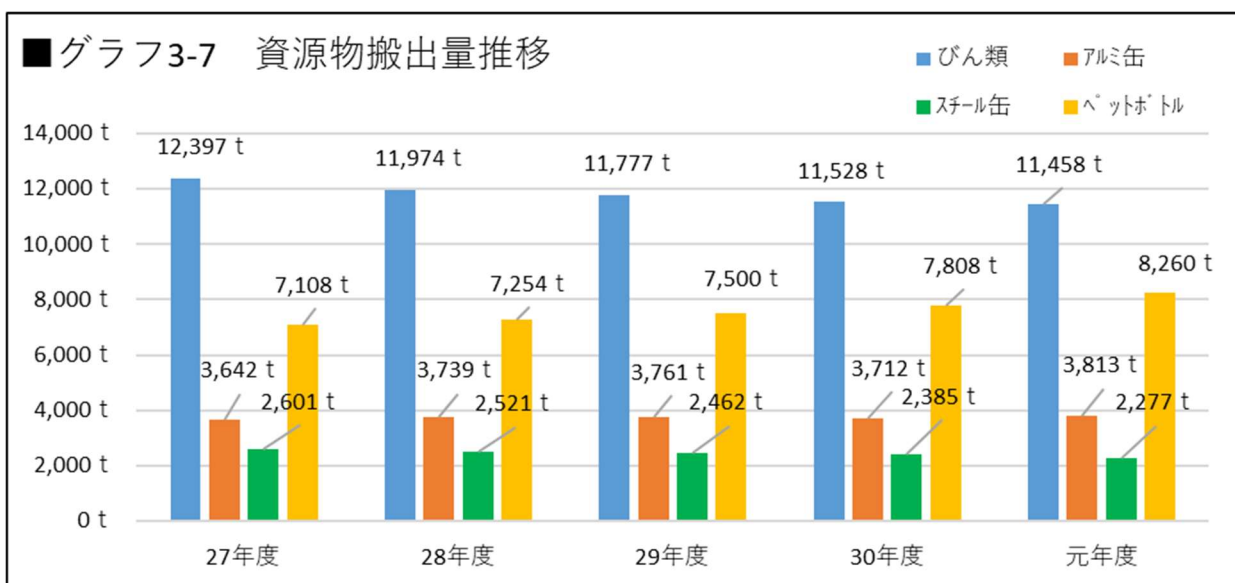
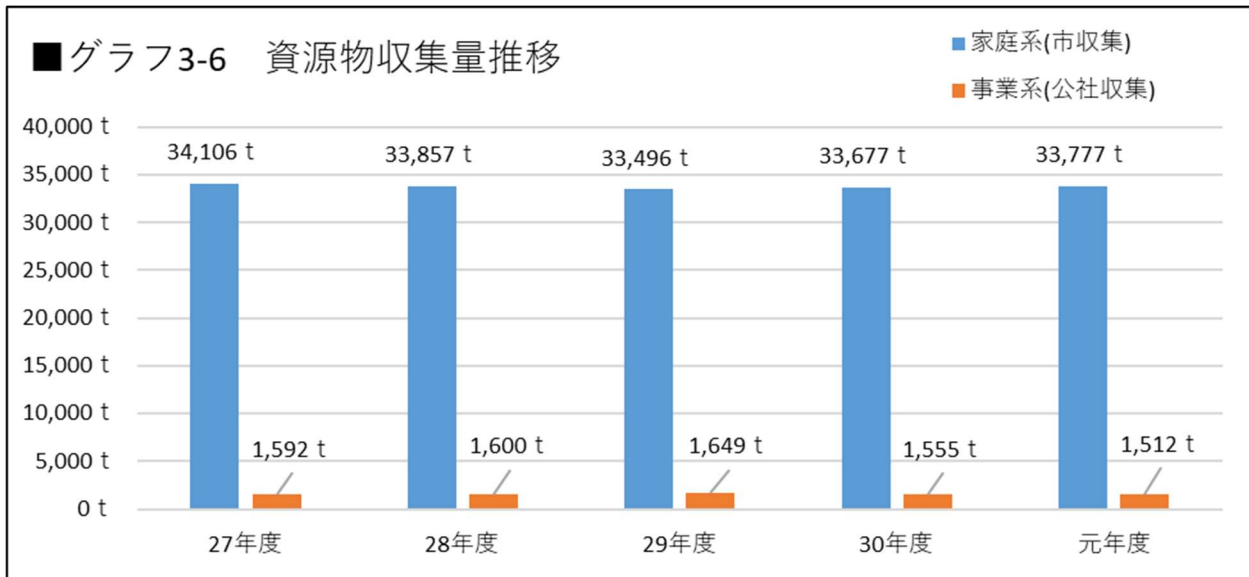
■表 3-5 直近5年間の事業実績

項目		直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)	
		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度		
受入量	受入量	35,698 t	35,457 t	35,145 t	35,232 t	35,289 t	前年度実績比	0.2% 増
	家庭系	34,106 t	33,857 t	33,496 t	33,677 t	33,777 t	前年度実績比	0.3% 増
	事業系	1,592 t	1,600 t	1,649 t	1,555 t	1,512 t	前年度実績比	2.8% 減
	公社収集	1,415 t	1,344 t	1,274 t	1,232 t	1,198 t		
	黄ﾌﾟﾘ選別	177 t	256 t	375 t	323 t	314 t		
選別区分	びん	12,397 t	11,974 t	11,777 t	11,528 t	11,458 t	家庭系のみ指定法人ルート	
	白びん	4,850 t	4,603 t	4,474 t	4,372 t	4,071 t		
	茶びん	4,094 t	3,964 t	3,890 t	3,739 t	3,766 t		
	その他びん	3,453 t	3,407 t	3,413 t	3,417 t	3,621 t		
	缶	6,243 t	6,260 t	6,223 t	6,097 t	6,090 t		
	アルミ缶	3,642 t	3,739 t	3,761 t	3,712 t	3,813 t		
	スチール缶	2,601 t	2,521 t	2,462 t	2,385 t	2,277 t		
	ペットボトル	7,108 t	7,254 t	7,500 t	7,808 t	8,260 t	家庭系のみ指定法人ルート	
	選別量合計	25,748 t	25,488 t	25,500 t	25,433 t	25,808 t	前年度実績比	1.5% 増
残さ	可燃残さ	4,159 t	4,818 t	5,239 t	4,445 t	4,200 t		
	埋立残さ	4,056 t	3,286 t	3,058 t	3,431 t	3,264 t		
	残さ合計	8,215 t	8,104 t	8,297 t	7,876 t	7,464 t		
リサイクル率		75.8%	75.9%	75.5%	76.4%	77.6%		

※リサイクル率＝選別量合計／(選別量合計＋残さ合計)

【資源物の引き渡しについて】

- 札幌市収集分の資源物については、資源物の種類ごとの市況に応じ、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じた指定法人ルートまたは札幌市が再商品化事業者と直接契約する独自ルートのいずれかで再商品化事業者に引き渡している。
- 公社が収集した事業系の資源物（搬入量比で案分）については、札幌市の家庭系資源物が指定法人ルートまたは独自ルートのいずれかで引き渡し先となったリサイクル業者（再商品化事業者）を相手方とし、公社が独自に別途契約して引き渡している。



3-3 施設管理受託事業（決算額 153,128,244円）

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当公社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当公社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (ごみ資源化工場、篠路破碎工場、篠路破碎工場付帯施設) (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したごみ処理の実施。

■事業実績

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業（決算額 73,023,618円）

【対象施設と事業内容】

① ごみ資源化工場及び貯留サイロ（平成2年度～）

- ・平成2年3月完成のRDF工場及び昭和61年6月完成の貯留サイロ、昭和63年3月完成のチップ工場
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて固形燃料(RDF)を生産し、需要先（北海道地域暖房株）に供給
- ・公社の実施内容はごみ資源化工場運営の総括管理及び計量徴収業務（平成19年度までは運転・運搬も含めて一括受注）
- ・別途発注業務（資源化工場の運転業務、固形燃料運搬業務、等）

② 篠路破碎工場、篠路破碎工場付帯施設（平成25年度～）

- ・昭和55年12月完成の篠路破碎工場及び付帯施設（旧清掃工場の受変電等設備）
- ・破碎工場における自己搬入ごみ、大型ごみ等の受入及び破碎処理
- ・旧篠路清掃工場の受変電、給排水空調衛生等設備の運転による敷地内各施設への供給等
- ・公社の実施内容は破碎工場の運営及び旧篠路清掃工場の受変電等設備運転の総括管理
- ・別途発注業務（破碎工場の設備等運転業務、可燃物運搬業務、付帯施設等運転業務、等）

【令和元年度事業実績】

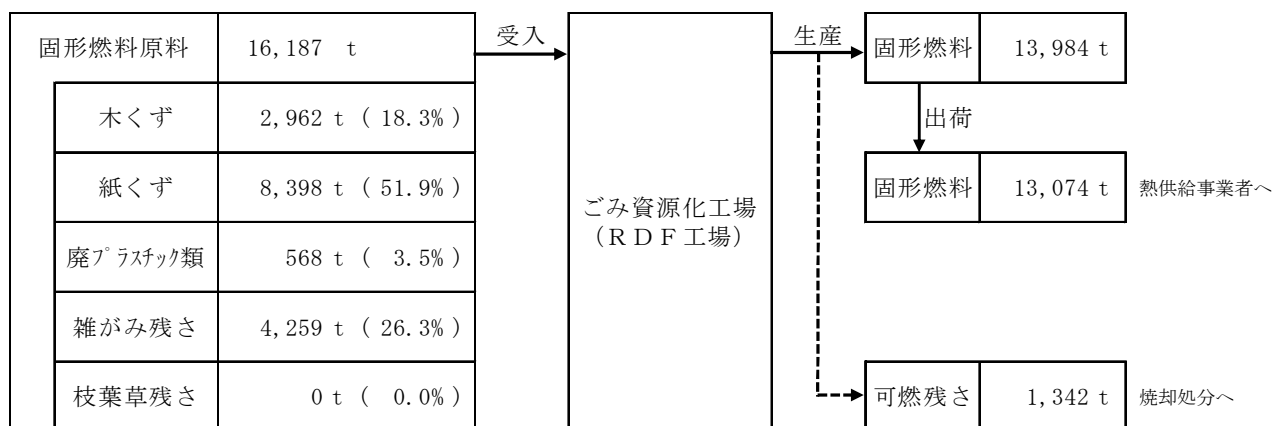
ごみ資源化工場（RDF工場）

項 目	計画	実績	摘 要
ごみ受入量	16,400 t	16,187 t	計画比 1.3%減、前年度実績比 3.6%減
固形燃料生産量	14,500 t	13,984 t	計画比 3.6%減、前年度実績比 1.4%増
固形燃料出荷量	14,500 t	13,074 t	計画比 9.8%減、前年度実績比 11.3%減

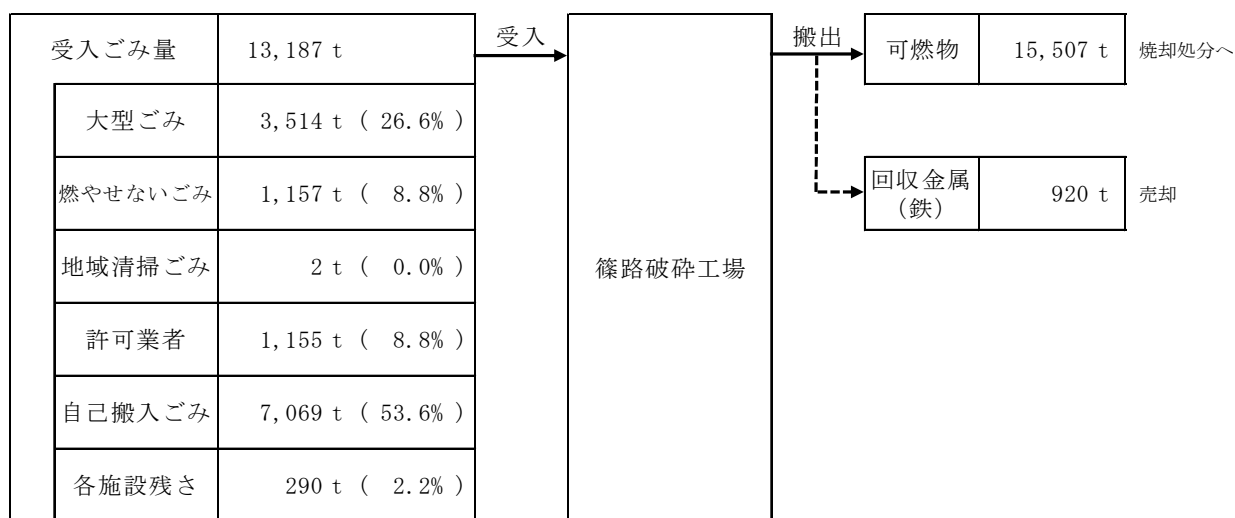
篠路破碎工場

項 目	計画	実績	摘 要
ごみ受入量	12,300 t	13,187 t	計画比 7.2%増、前年度実績比 7.9%減

■図 3-8 令和元年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図



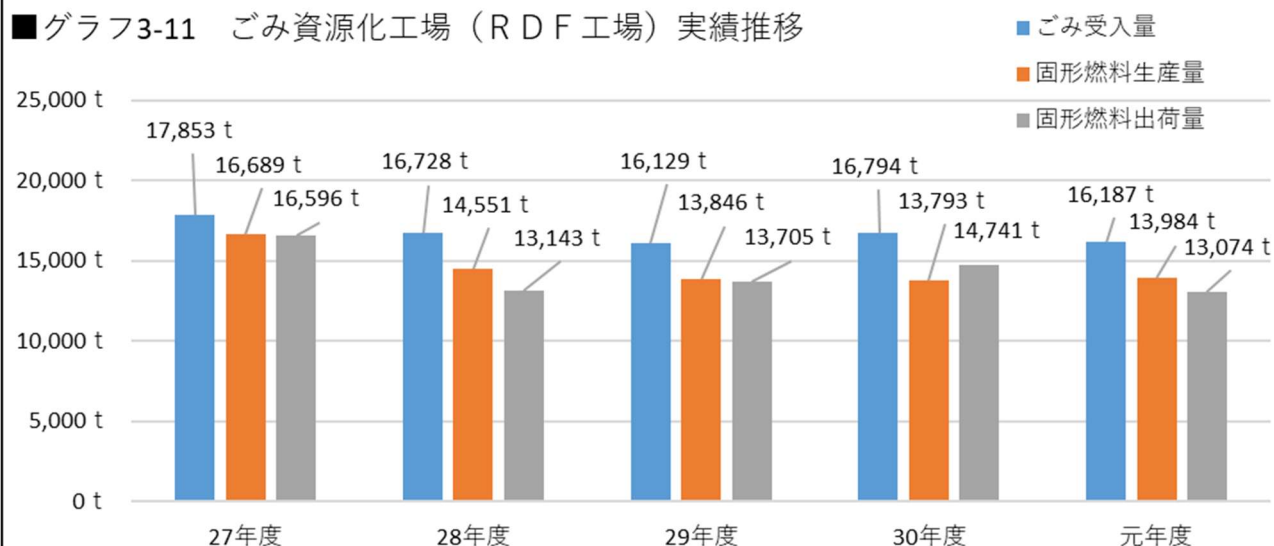
■図 3-9 令和元年度 篠路破碎工場処理実績フロー図



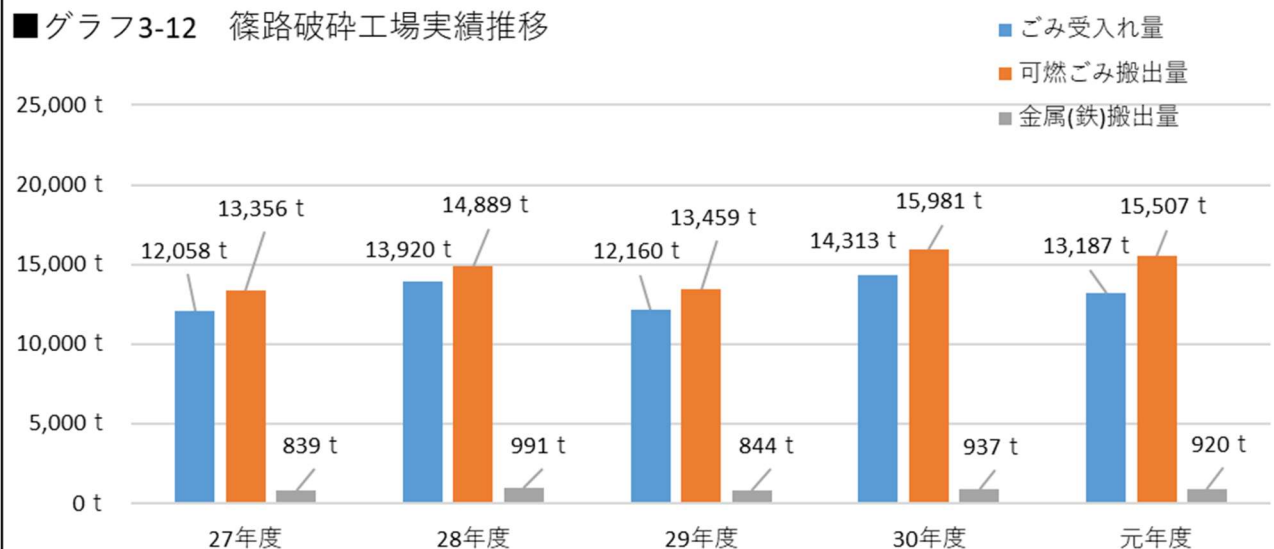
■表 3-10 直近5年間の事業実績

項目		直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)
		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
ごみ資源化工場	ごみ受入量	17,853 t	16,728 t	16,129 t	16,794 t	16,187 t	前年度実績比 3.6% 減
	固形燃料生産量	16,689 t	14,551 t	13,846 t	13,793 t	13,984 t	前年度実績比 1.4% 増
	固形燃料出荷量	16,596 t	13,143 t	13,705 t	14,741 t	13,074 t	前年度実績比 11.3% 減
篠路破碎工場	ごみ受入れ量	12,058 t	13,920 t	12,160 t	14,313 t	13,187 t	前年度実績比 7.9% 減
	可燃ごみ搬出量	13,356 t	14,889 t	13,459 t	15,981 t	15,507 t	前年度実績比 3.0% 減
	金属(鉄)搬出量	839 t	991 t	844 t	937 t	920 t	前年度実績比 1.8% 減

■ グラフ3-11 ごみ資源化工場（R D F 工場）実績推移



■ グラフ3-12 篠路破砕工場実績推移



(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（決算額 37,260,055円）

【対象施設と事業内容】

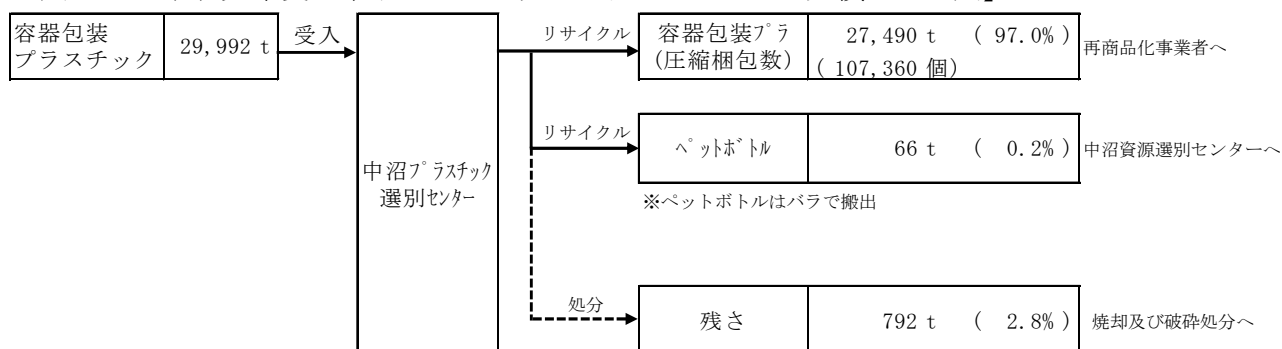
中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す事業。
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元材等。
- ・公社の実施内容は、市との密な連絡調整に基づく別途発注業務の総括管理。
- ・別途発注業務（運転業務、残さ運搬業務、等）

【令和元年度事業実績】

項 目	計画	実績	摘 要
容器包装プラ受入量	29,900 t	29,992 t	計画比 0.3%増、前年度実績比 1.5%増
圧縮梱包品	27,380 t	27,490 t	計画比 0.4%増、前年度実績比 2.1%増

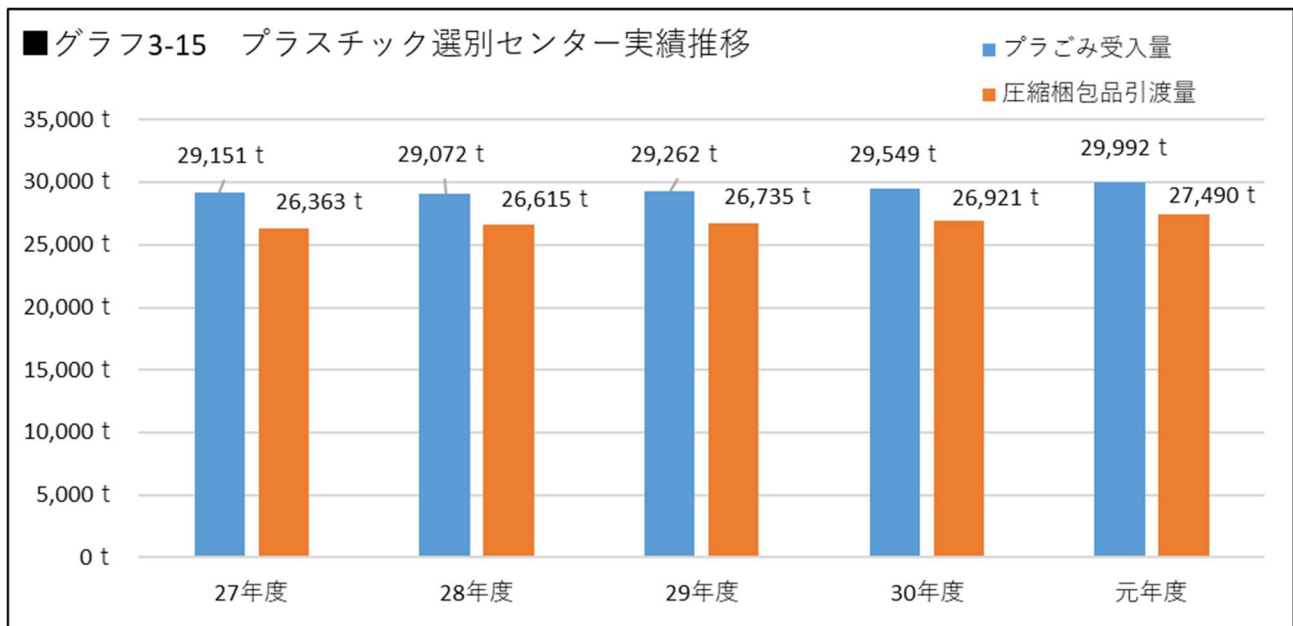
■図 3-13 令和元年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



■表 3-14 直近5年間の事業実績

項目	直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
プラスチックごみ受入量	29,151 t	29,072 t	29,262 t	29,549 t	29,992 t	前年度実績比 1.5% 増
圧縮梱包品引渡量	26,363 t	26,615 t	26,735 t	26,921 t	27,490 t	前年度実績比 2.1% 増
(同上圧縮梱包個数)	109,760個	104,280個	105,236個	106,544個	107,360個	
ペットボトル	64 t	68 t	70 t	66 t	66 t	
残さ	709 t	697 t	747 t	819 t	792 t	
リサイクル率	97.4%	97.5%	97.3%	97.1%	97.2%	

※リサイクル率＝（圧縮梱包品引渡量＋ペットボトル）／（圧縮梱包品引渡量＋ペットボトル＋残さ）



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業（決算額 21,427,584円）

【対象施設と事業内容】

中沼雑がみ選別センター

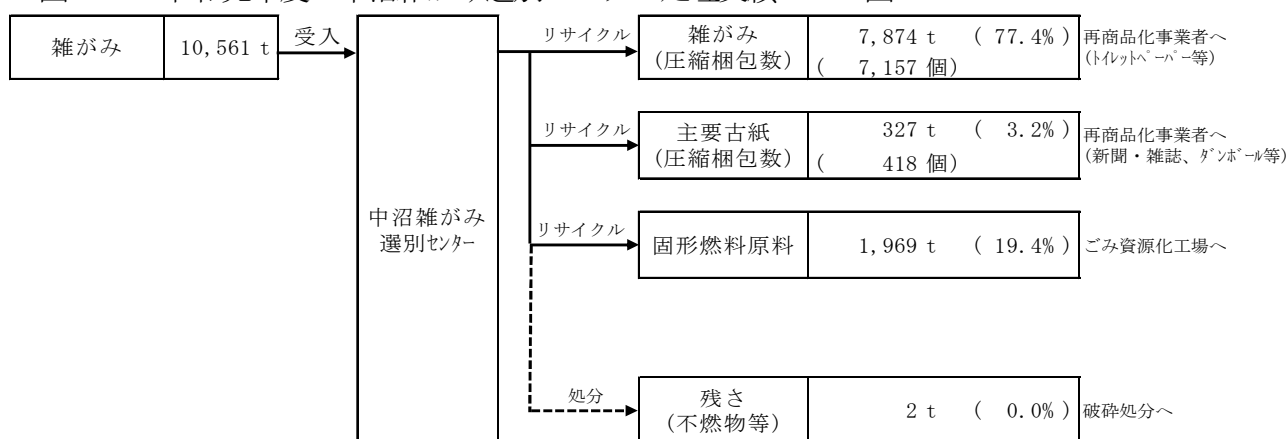
- ・平成21年7月供用開始（平成9年4月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修）
- ・処理能力85t/日（2系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する雑がみを受け入れ、選別、圧縮・梱包して、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者に引き渡す事業。
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生紙やトイレットペーパーの原料等。
- ・公社の実施内容は、市との密な連絡調整に基づく別途発注業務の総括管理。
- ・別途発注業務（運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、等）

※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

【令和元年度事業実績】

項 目	計画	実績	摘 要
雑がみ受入量	10,140 t	10,561 t	計画比 4.2%増、前年度実績比 3.0%減
雑がみ圧縮梱包品	8,080 t	7,874 t	計画比 2.5%減、前年度実績比 5.8%減
主要古紙	350 t	327 t	計画比 6.6%減、前年度実績比 10.2%減

■図 3-16 令和元年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図

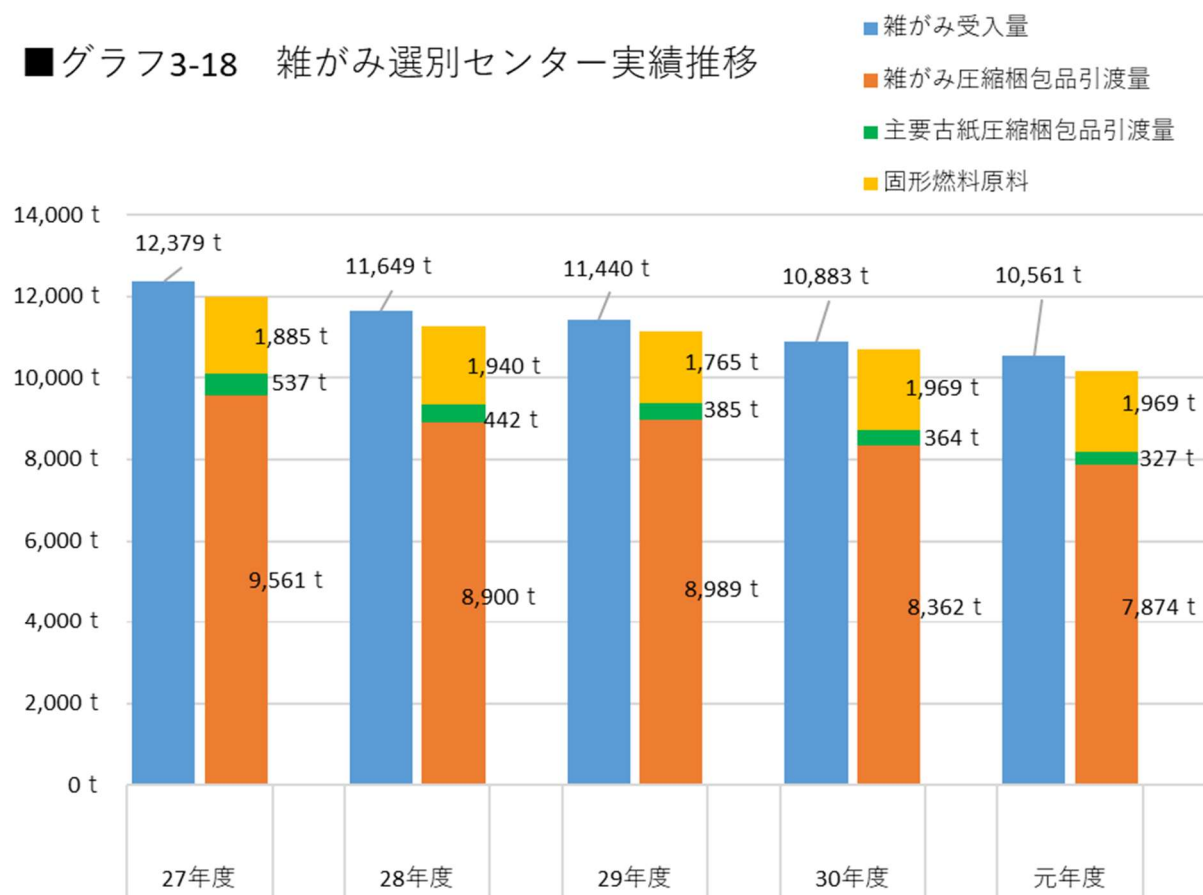


■表 3-17 直近5年間の事業実績

項目	直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
雑がみ受入量	12,379 t	11,649 t	11,440 t	10,883 t	10,561 t	前年度実績比 3.0% 減
雑がみ(雑がみ規格外品) 圧縮梱包品引渡量	9,561 t	8,900 t	8,989 t	8,362 t	7,874 t	前年度実績比 5.8% 減
(同上圧縮梱包個数)	8,550個	8,464個	8,046個	7,513個	7,157個	
主要古紙 圧縮梱包品引渡量	537 t	442 t	385 t	364 t	327 t	前年度実績比 10.2% 減
(同上圧縮梱包個数)	660個	550個	484個	462個	418個	
固形燃料原料	1,885 t	1,940 t	1,765 t	1,969 t	1,969 t	前年度実績比 0.0% 減
残さ	2 t	2 t	2 t	2 t	2 t	
リサイクル率	99.98%	99.98%	99.98%	99.98%	99.98%	

※リサイクル率＝（圧縮梱包品引渡量＋固形燃料原料）／（圧縮梱包品引渡量＋固形燃料原料＋残さ）

■ グラフ3-18 雑がみ選別センター実績推移



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 21,416,987円)

【対象施設】札幌市リサイクル団地

- ・札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群。
- ・平成6～8年度に札幌市が基盤造成を実施、平成7年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間6社7施設、市有2施設、公社1施設の合計10施設が立地している。

【実施内容】

- ・当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。
 - ① リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
 - ② リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
 - ③ 井水供給設備の維持管理業務
 - ④ 団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
 - ⑤ リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月1回開催：7・12月を除く）
 - ⑥ その他の管理業務

【令和元年度事業実績】

- ・札幌市の所管課との密な連携のもと、いずれの業務も計画通り適切に行った。
- ・リサイクル団地協議会を通じ、参入企業間の情報共有、各種調整を円滑に行った。

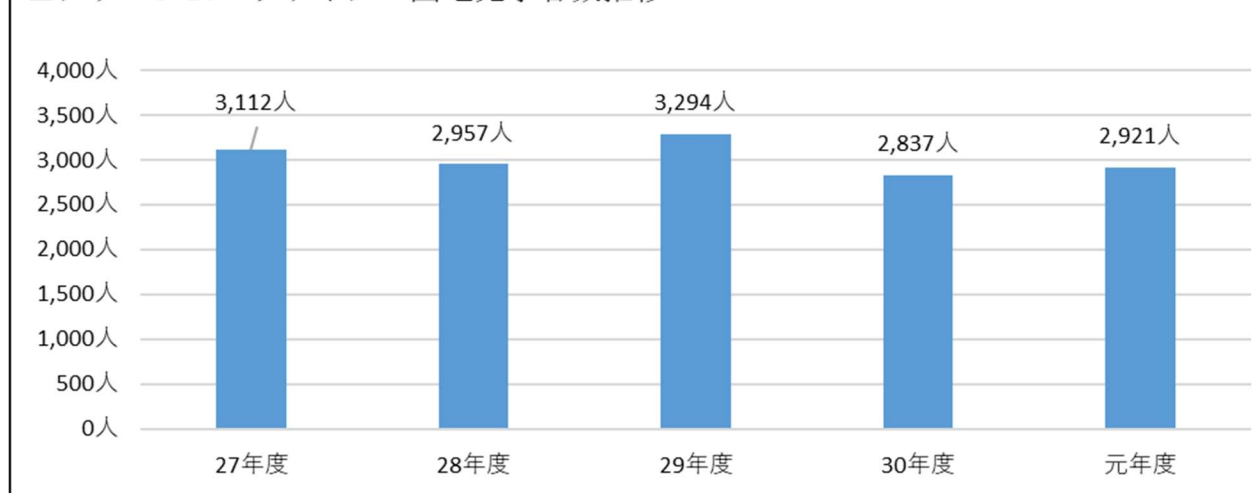
■表 3-19 直近5年間の見学実績

項目	直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)	
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度		
見学件数	147件	150件	164件	165件	168件	前年度実績比	1.8% 増
見学者数	3,112人	2,957人	3,294人	2,837人	2,921人	実績比	3.0% 増

※見学申し込みの受付案内については主に当公社ホームページにてPR。

※人数的には学校関係が最も多く、その他、他都市視察、官庁関係、町内会、JICA等。

■グラフ3-20 リサイクル団地見学者数推移



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業（決算額 26,833,913円）

■事業概要

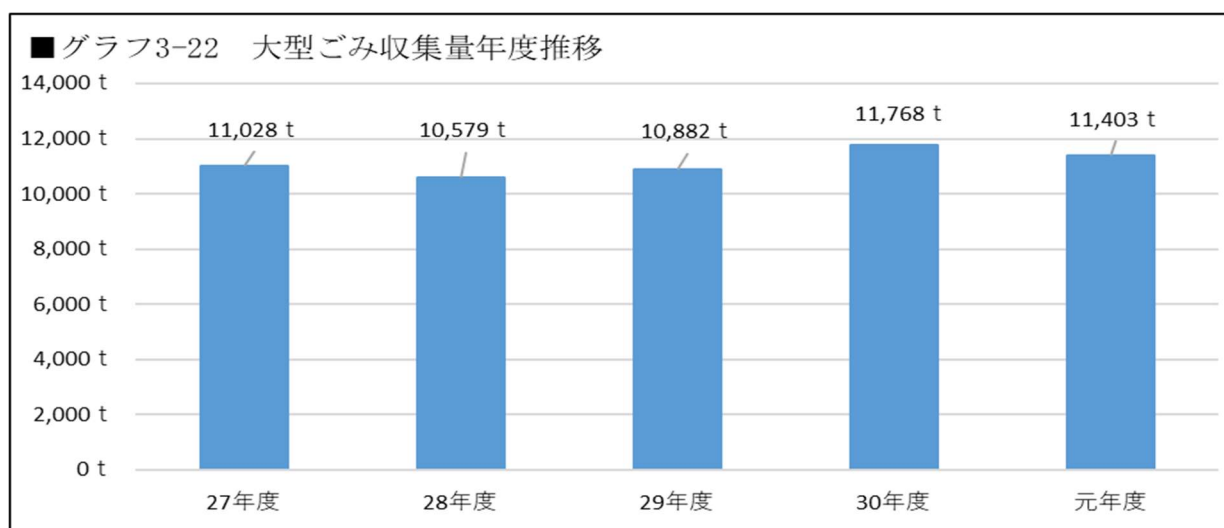
事業経緯	札幌市が平成9年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成11年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	- 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 - 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 - 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター（北1条西10丁目 ユーネットビル2F）
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施。

■令和元年度事業実績

項 目	計画	実績	摘 要
受付・問合せ件数	435,300件	473,494件	計画比 8.8%増、前年度実績比 0.2%増
収集件数	302,700件	325,412件	計画比 7.5%増、前年度実績比 0.9%減
収集個数	766,500個	812,544個	計画比 6.0%増、前年度実績比 1.7%減
収集量	10,900 t	11,403 t	計画比 4.6%増、前年度実績比 3.1%減

■表 3-21 直近5年間の事業実績

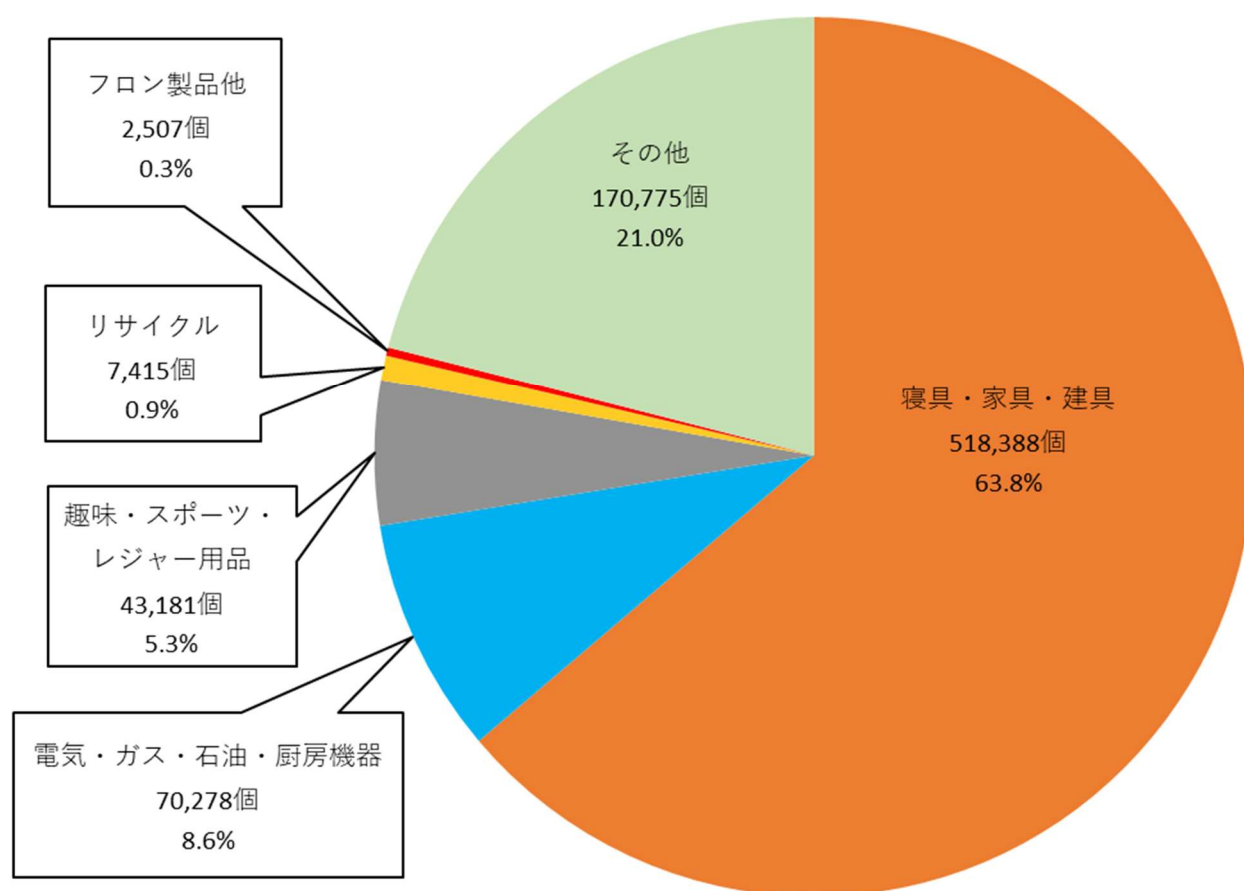
項目	直近5年間の実績					摘 要 (令和元年度実績の状況)
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
受付・問合せ件数	453,290件	435,182件	452,107件	472,700件	473,494件	前年度実績比 0.2% 増
収集件数	313,363件	299,821件	310,025件	328,257件	325,412件	前年度実績比 0.9% 減
収集個数	782,640個	760,148個	790,154個	826,842個	812,544個	前年度実績比 1.7% 減
収集量（重量）	11,028 t	10,579 t	10,882 t	11,768 t	11,403 t	前年度実績比 3.1% 減



■表3-23 主な収集品目(上位10品目)

	品目	収集個数	割合
1	椅子	118,738個	14.6%
2	衣装箱	88,354個	10.9%
3	布団	76,649個	9.4%
4	テーブル	42,102個	5.2%
5	カーペット	27,656個	3.4%
6	自転車	24,695個	3.0%
7	ベッド	23,574個	2.9%
8	ベッドマットレス	22,889個	2.8%
9	カラーボックス	22,072個	2.7%
10	ロッカー	20,849個	2.6%
—	その他	344,966個	42.5%
	合計	812,544個	100.0%

■グラフ3-24 大型ごみ収集品目大分類内訳



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 6, 298, 630, 755円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業。
実施内容	1. 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物を収集運搬。 ・焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集。 ・リサイクルごみの種類は、紙くず・木くず・軟質プラスチックの「資源化ごみ」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2. 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬。
収集先	伝票収集：約 10,000 事業所、プリペイド袋収集：約 22,000 事業所
運搬先	「一般ごみ」→ 白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃プリペイド袋」「剪定枝」→ 篠路の資源化工場 「生ごみ」→ 中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→ 中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和元年度事業実績

① ごみの総収集量

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積 ^{m³}	1,050,650	1,045,842	1,060,477	計画比 0.5%減、前年度実績比 1.4%減
重量 t	172,030	169,963	174,222	計画比 1.2%減、前年度実績比 2.4%減

② 廃棄ごみ・リサイクルごみの「収集量」「全体に占める割合」

廃棄ごみ＝一般ごみ

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積 ^{m³}	860,420	848,980	859,938	計画比 1.3%減、前年度実績比 1.3%減
重量 t	137,900	137,649	141,037	計画比 0.2%減、前年度実績比 2.4%減
割合%		81.2	81.1	廃棄ごみ体積／総収集量体積

リサイクルごみ＝一般ごみ以外

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積 ^{m³}	190,230	196,862	200,539	計画比 3.5%増、前年度実績比 1.8%減
重量 t	34,130	32,314	33,185	計画比 5.3%減、前年度実績比 2.6%減
割合%		18.8	18.9	リサイクルごみ体積／総収集量体積

③ リサイクルごみの収集量（体積m³）

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
資源化ごみ	97, 220	100, 249	102, 926	計画比 3. 1%増、前年度実績比 2. 6%減
生ごみ	49, 950	48, 995	50, 868	計画比 1. 9%減、前年度実績比 3. 7%減
不燃用プリ袋	24, 890	27, 368	26, 869	計画比 10. 0%増、前年度実績比 1. 9%増
剪定枝	1, 560	2, 384	2, 840	計画比 52. 8%増、前年度実績比 16. 1%減
びん・缶・ペット	16, 610	17, 866	17, 036	計画比 7. 6%増、前年度実績比 4. 9%増

④ 家庭用パソコンのリサイクル収集台数（回収メーカー不在又は自作パソコン等）

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは各メーカーが回収しているが、自作パソコン等は当公社で収集している。

収集品目	今年度実績	前年度実績	摘 要
パソコン本体等	5 0	4 0	前年比 1 0 台増
ディスプレイ等	3 5	2 9	前年比 6 台増
合 計	8 5	6 9	前年比 1 6 台増

■ 直近5年間の事業実績（ごみ総収集量の推移）

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	平均値
体積m ³	1, 041, 990	1, 038, 963	1, 054, 537	1, 060, 477	1, 045, 842	1, 048, 362
重量 t	170, 286	169, 101	171, 482	174, 222	169, 963	171, 011

■ 契約件数

契約方法	今年度実績	前年度実績	摘 要
伝票収集	9, 9 5 1	1 0, 0 4 1	前年比 90 件減
プリペイド袋収集	2 3, 2 8 0	2 2, 7 7 5	前年比 505 件増
合 計	3 3, 2 3 1	3 2, 8 1 6	前年比 415 件増

重点事業

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

① 収集回数の削減に向けた取組み

曜日別に効率化が可能な3つの収集コースを見直して収集回数を削減した。また、プリペイド袋収集事業所の1回当たりの収集量が少ない事業所に対して「電話注文による収集」などの変更折衝を実施した。

② 収集作業に支障のある顧客サービスの見直し

札幌市立の小中高校319校のごみ収集について、従前は収集の都度伝票を発行し、職員室まで確認印をもらいに行っていた方法を、「ごみ収集確認書」に収集量を記載し、学校職員には適宜確認のサインや押印をもらう方法に改めた。

この見直しによって、収集作業に係る時間を大幅に短縮することができ、また、発行後の伝票集計作業も1枚の「ごみ収集確認書」でできるようになり、事務処理作業の軽減も図ることができた。

(2) インターネットを活用した顧客サービスの導入

新たなWebサポート機能として、「プリペイド袋収集受付システム」を令和元年10月より開始した。これにより、従前は営業時間内に電話やFAXで受付をしていたプリペイド袋収集の申し込みが、スマートフォンやパソコンからは24時間申し込める受付体制となり、顧客サービスの向上が図られるとともに、公社においては、電話やFAXでの収集依頼が減少することにより事務作業の改善を図ることができた。

(3) 公社職員及び代行収集員などの人材育成

① 公社職員研修の充実

公社では、日々600～1,000件もの電話による収集依頼や問い合わせがあるが、対応に統一感を持たせ、より円滑かつ的確な対応ができるように、業務上必要な知識やノウハウなどのレベルアップを目指して定期的な社内研修を行うとともに、職責に応じた外部研修を受講させ、個々の能力向上を図った。

② 代行収集員などの育成

「顧客に信頼される安全、確実な作業」に対する意識向上を図るため、代行各社において交通事故や作業事故の撲滅に向けた社内研修を実施したほか、公社主催の「交通安全研修会」や公社職員と代行各社の業務担当者、ごみ収集マイスターを対象とした「合同研修会」に外部講師を招いて実施した。